

平成29年度 母親世代タスクチーム（第4回）概要報告

日 時： 平成29年9月22日（金） 10：00～14：00（11：50～12：40 昼食）

場 所： ボーイスカウト会館703号室

テーマ： 母親世代の共感を得られるボーイスカウトのPRポイントと その方法を考える

1. あなたが考えるボーイスカウトのPRポイント(魅力)は？
ーキーワードを3つ挙げて、ボーイスカウトのPRポイント(魅力)をママ友に説明してください
2. ある団のホームページを見ての感想
ー団のホームページに欠かせない要素(情報)とは
ーお子さんの所属団のホームページで気になった点
3. 母親世代にとって有効な口コミツールは？
4. 日本連盟のホームページ「なろう。一人前に。」を見ての感想

構成員： 母親世代タスクチーム員 7名（関東ブロック構成県連盟からの推薦者）
団支援・組織拡充委員会 委員長 村田禎章、委員 木村寿宏、委員 澤 朋宏
社会連携・広報委員会 委員 川瀬政美
事務局組織・管理部 課長 額谷征幸、職員 清水美保
社会連携・広報部 職員 深見泰子

トークセッションまとめ：

1. あなたが考えるボーイスカウトのPRポイント(魅力)は？

キーワード「仲間」

- ・学校や塾でも家族でもない仲間と居場所がある
- ・一生の仲間ができる
- ・友達同士で遊ぶのとは異なり、仲間の中で一人ひとりの個性を生かし認め合いながら成長できる
- ・仲間との横のつながりはもちろん！！いろいろな世代の出入りがあるので、部活動のような縦社会をしっかりと学べる
- ・男女を超えた「同志」として、なんでも相談しあって仲が良い
- ・ほかの学校、異学年の子どもたちと関わりを持つことができ、子どもの居場所が増える
- ・集団行動のなかで、きまりを守り協力することが体験できる
- ・すぐそばにお手本がいる
 - ー 上の部門の活動する姿を見ることで、こういうことができるようになるという視野が広がり、子どもの意欲が湧きやすい
 - ー 下の部門のスカウトの面倒の見方を学べる
- ・先輩スカウト(ボーイ)から「来年待っているからな」と声をかけてもらった
- ・先輩スカウト(ベンチャー)が「なぜ、こんなに言うかわかる？お前に期待しているから言うんだよ」と言ってくれたことで、子どもの顔つきが変わった「怒られているんじゃないんだ」
- ・世界中に仲間がいて同じように活動している
- ・共に挑戦する仲間がいて見守ってくれる指導者がいる
- ・世代を超えた活動では、普段はかかわりのない指導者とも接することができる
- ・保護者が期待していること ＝ 親より考えてくれる指導者
- ・キャンプの準備などをしてくれる指導者への感謝

- ・親や先生以外の大人が、自分の子どものように接してくれる。叱るべきところで叱ってくれ、成長を一緒に見守ってくれる
- ・親や先生以外の大人たちを通じ様々な価値観に接することで、人間性や社会性を身につけることができる

キーワード「自然」

- ・君もできるよ！自然の中に仲間と飛び出してみようよ！
- ・休みは何してる？！大自然と友だちになってみないかい？！
- ・自然体験を通して生きる力と知恵を得られる
- ・自然と触れ合い、現代の“当たり前”に感謝する機会を体験する
- ・自然での活動を通し、日常生活では得られない体験・経験をして、より成長できる
- ・暑ければクーラー、用意された食事、衛生的なトイレ…キャンプや雨のプログラムなど自然の中で不便を体験し、日常のありがたみを知る
 - － 防災プログラムで、ご飯を炊くのも大変だということを経験した
 - － 東日本大震災の時には、被災地だけに限らず不便を感じた人はたくさんいたはず
 - － 震災・天災などにより、防災について意識が高まっている。そこに力を入れると良いのでは
- ・ボーイスカウト＝“自然”というイメージを持って見学に来る方が多い
- ・キャンプなどの手伝いを通じ、親も学ぶことがある

キーワード「挑戦」

- ・好奇心
 - － ワクワクするような活動内容がたくさん！！
- ・家族だけでは味わえない達成感を共有できる
 - － 周りの保護者に「強いよね」と言われる。親としての気づきがある
- ・サバイバルスキル（困難に対応）
 - － 家族ではできないことがある。甘えられる親がいない。同志・仲間がいて、「長」（組長・班長など）をつけてもらって、考えて、工夫して、体験して、できることで逞しくなる。自信がつく
 - － 家庭でできないことがやれる。家族では実行しないような、雨の中のキャンプ
- ・自分で考え、何かをやり遂げる力を見につける
 - － ビーバー、カブの時はただただ楽しいから参加していた。ボーイに上がって責任を与えられ葛藤している姿が見えた。ここ（ボーイ）まで体験しないと、途中（ビーバーやカブ）で辞めてしまっただけで悔しいと思った。両立ができず部活動を選択する子どもがいる中で、わが子は両立を選択したが、ボーイスカウト活動だけでいいではないか。自信を持って「ボーイスカウト部です」と言いたい。長くやってきてやっと今「ボーイスカウト最高！」と思っている。
- ・目標に向かってみんなで考え助け合い協力することを学ぶことができる
- ・子どもが毎回キラキラした目で楽しみに参加できる

キーワード「多様性」

- ・じもとも（地元友）もセカトモ（世界友）も、世代を超えてつながるよ 大自然を舞台に！
- ・プログラムの多様性
 - － ボーイスカウトとは何かを知らない学校の先生が多いが、子どもの日記を読んで「良い活動ですね」と言われる
- ・スポーツなどほかの習い事との差別化

- コミュニケーションスキル・アカデミックな要素
- 学校や習い事などでの評価とは別の活動ができる
- ・子どもによる自主的な活動体験
- ・より高いレベルで五感を刺激してくれる
- ・相手(友だち)を思いやる心が育つ
- ・心も体も逞しく育つ
- ・考える力が育つ
 - BVS～RSのすべての世代で、それぞれプログラムに応じた力がつく
 - まとめ役になると、自分で考えることで学ぶことが多い
- ・判断力・適応力が育つ
- ・いろいろな世界とつながろう
 - ジャンボリーなどの映像を見て、国際交流だけに響いてしまう人がいる。いろいろ培ったうえでの国際交流。ボーイスカウトの「世界」とは国際交流だけを指しているのではない
 - 野外(自然と触れ合う)体験、バリアフリー、国際交流、奉仕活動

キーワード「なれたよ1人前に！！」(一人前のその先に)

- ・保護者の知りたいこと = 一人前のその先に何があるのか
- ・続けてきた今は「形になったな」と感じるができるが、参加しないとそれにも気づかない
- ・ゆくゆくの「素敵」を見せる
- ・ボーイスカウトを続けていくことで何が見につくか、人として仕上がり度のモデル・サンプル
- ・ボーイスカウトの将来像を見せる
 - 様々な職業の先輩・指導者やOBを見せる、話をしてもらうなど
- ・普段の活動では、他部門はどんな活動をしているか分からない。できれば、ボーイの隣でカブ、カブの隣でビーバーなど、上の部門の活動が見られる状況を作ること、保護者も子どもも、その先に何があるかを見ることができて良い(子どもの将来が見える)
- ・上の部門の“見える化”
- ・各部門のプログラム(目的など)の違いが見えると良い
- ・夏祭りで、ボーイがテントを建ててくれる。かまどを作って見せてくれる。そこにビーバーやカブの保護者が反応する「どうやって作ってるの？」
- ・上の部門のスカウトが、下の部門のお手伝いに必ず入る
- ・意識して、他部門合同の活動の機会を作ると良い
- ・先輩スカウトの体験談が聞ける機会があり、参考になる。そういうアプローチが必要
- ・先が見えることで、保護者の理解が得られ、お手伝いしてくれる保護者が増えるかも
- ・スポーツは「シュートがうまくなった」「レギュラーになった」など、目に見える成果がある。ボーイスカウトは明確に見える“何か”があるわけでない。形がない分、結果が見えないと保護者は不安になる
- ・全部門の活動報告の映像を、保護者も含め全員で観る
 - 保護者の目安になる。この先こういうことをするのか。ここまでやるのか(できるようになるのか！)
 - 女子の保護者には逆効果の場合もある「ここまでは無理だな…」

2. ある団のホームページを見ての感想

- ・いかに簡単に“目的の団の目的の情報”にたどり着けるかが重要
 - シンプル・簡潔で見やすくて、詳細(説明)のページが探せないのはダメ
- ・開かれた組織だという印象を与える

- ・部門主体の作り（「ビーバースカウト」「カブスカウト」など部門別の入口があつての詳細説明）が多いが、「小学校1年生」を選ぶとビーバーに飛ぶなど、学年主体の方が入隊を検討している保護者（ボーイスカウトを知らない保護者）に分かりやすい
 - － 何歳～何歳が〇〇スカウト、と制服の写真とともに紹介していると分かりやすい
 - － 最初は、「ビーバー」「カブ」など部門に分かれていることすら知らなかった
「ボーイスカウトに入りたいのに、カブスカウトって何???」
- ・年間カレンダーでスケジュールが見られるのは魅力的
- ・イベントカレンダーだけ見ても何をしているか分からない
- ・アーカイブは、あるなら見たい。年間を通じ、どのような活動をしているかが見える。でも、せいぜい1年分くらいで良い。あまり過去の情報が多く載っていても見ない
 - － 外向けと内向けの情報ページを分け、団の記録は内向けのページに残す
- ・カッコいいデザインのホームページは、ボーイスカウト感が伝わりにくいことも
- ・トップページが写真ではなくイラストやキャラクターだと、イメージは伝わるがスカウトの雰囲気が伝わらない
- ・ホームページ自体の作りが古かったり、掲載情報が古かったり、フォントがバラバラ…
 - － 部門の範囲が規程どおりに直されていない、長く更新されていない、など
- ・写真の適切な使い方が大切
 - － 写真と文字のバランスは重要
 - － 名前の表示は加工する
 - － 大きな写真は悪用が怖い
 - － 体験に来ている子どもを載せる際には、保護者に確認を
 - － 何をしている写真かわからない。プログラムが見える写真が良い
 - － 時期や何をしているところかなど、キャプションがあると良い
- ・保護者・指導者のコメントや体験談が読めると、親近感が湧くと思う
- ・略語は控え、専門用語には説明を（WS Jって何？ B-Pって何？）
- ・電話よりメールの方が、問い合わせのハードルが低い
 - － 問い合わせ先が個人名なので、相手の時間を気にせず、問い合わせできる方が良い
 - － フリーアドレス（Yahoo!mail など）でも、気にならない。不安はない
- ・問い合わせをしやすい作りに
 - － 問い合わせ用のメールアドレスや電話番号を掲載する場合は、関連するアプリが立ち上がるようにするなど、工夫が必要。情報をコピーして、アプリを起こして、貼り付けて…と手間がかかり、問い合わせに至らない場合があるかも
- ・隊ごとのお手紙やお知らせが載っているのは、スカウト保護者にはありがたい
- ・フリーサイト利用のホームページでも、気にならない
 - － 安全性に関する心配などはしない。しかし、広告の出すぎは気になる

3. 母親世代にとって有効な口コミツールは？

- ・スマホ対応のホームページ
- ・インスタグラム
- ・スマホのアプリ —— 問い合わせ機能があると良い
- ・（過去の経験から）マーチングバンドをしていた。当時は知らない人が多かったが、著名人がテレビの特集で取り上げてくれたことで、取材を受けたりして、全国的に知れ渡りメジャーになった。テレビ番組で取り上げてもらえると良い
- ・ボーイスカウト芸人の企画
- ・カッコいいエピソードを一般の人に届けたい

- ・“何か”とタイアップしたボランティア活動取材に来てもらう
- ・指導者もボランティアで、志高く指導してくれていることをアピールした方が良い
- ・NHKや新聞の地方版に取り上げてもらう
- ・オリンピックについての奉仕は？
 - － マラソンやスケートの大会のお手伝いの姿は、テレビで見かけたりする
- ・学校の行事へのボーイスカウトの指導者を派遣
 - － リコーダーアンサンブルの奏者や車いす競技の選手に来てもらうことがある

＝ロコミをして入隊を断られたときの理由を教えてください＝

- ・何が身につくか分からない
- ・「結構、親の負担があるんだね」
- ・土日まで子どもの予定に親が振り回されたくないとする保護者もいる
- ・うんとアウトドアなのかと思っていたのに、違った
(たまたまアウトドアの要素がない活動のときに見学に来て)
- ・毎回活動場所への送迎をしてもらうのが申し訳ない

＝見学の際に、内容や指導者に対しての不満など聞いたことがありますか？＝

- ・不満とは異なるが、座っている年配指導者たちについて「あの人たちはなに？」と聞かれたことがある

4. 日本連盟のホームページ「なろう。一人前に。」を見ての感想

全体的に

- ・文字だけより動画があると伝わりやすい
- ・動画ばかりで文字の情報が少ないため、時間をかけてゆっくり見ようという気になれない
- ・写真と文字での説明を増やした方が良い
- ・すでに入団している関係者向けのページという印象

キャッチコピー「なろう。一人前に。」について

- ・その下の文章を読んで「なるほど」となる
- ・活動をすべてやって、一人前になるのだろーと思える
- ・ドキッとした。ちゃんとした大人になってほしいという思いで指導者として活動しているため、腑に落ちた

一人前かるたについて

- ・まさに、こんな子どもに育ってほしい。わかりやすい

動画について～保護者インタビュー～

- ・保護者の意見を聞けるのは良い
- ・質問例を増やしても良いかも
 - － 聞きたいことがあっても、なかなか聞けず、でも興味がある方もいると思うので、どんなことに疑問・不安があるかリサーチして載せるのも良いと思う

動画について～夏休み編～

- ・第一印象は良かった
- ・筏を作るだけが活動ではないし、指導者もいない状態で2人だけで活動するわけでもなく、

事実と異なるので、知らない方がこれだけを観ると、ボースカウトらしさが伝わるか疑問

- ・指導者がいることも現した方が良い
- ・制服で活動しているシーンがあっても良いかも
- ・子どもが、知らない人に声をかけられちゃってるし…
- ・どうすると「一人前」になれるのか、「一人前」とは何かが分からない
- ・何を以て一人前なのかは、人により捉え方が異なるのでは
- ・爽やかな印象。悩んだり友だちとぶつかったりしながら一人前になっていく姿を描いた方が、保護者には魅力的ではないか
- ・ボーイスカウトを知っている人には伝わっても、馴染みのない方には漠然としているように思う

動画について～一人前とは編～(10月公開予定)

- ・(一同拍手) 夏休み編を観たときの疑問やモヤモヤが解消された

年代別プログラム

- ・各部門が目的としていることを太字で示している点が、わかりやすい
- ・高校生以上が文字だけでもったいない。「こうなるんだよ」が見えない
 - －ベンチャー、ローバーになるとどうなるのか分からない。こんな取り組みがあるというのが見たい
 - －「自主性に基づいた活動」とあるが、具体的に何なのか、そこが知りたい
 - －体験談、国際派遣、「富士取ったよ」など、写真も欲しい

以上